

公立阿伎留医療センター職員のコロナワクチン接種後の副反応報告

院内新型コロナウイルス感染対策本部

本部長・院長 荒川 泰行

どのようなワクチンでも、生体に接種する限りそれは異物でありますので、接種後に免疫反応が誘起されて多少の副反応が生じますが、決して珍しいものではありません。したがって、副反応をゼロにすることは困難でありますので、「副反応が怖い」という方もおられると思います。個人の任意の判断で、接種によって得られる利益と副反応などのリスクを比較して接種の是非を意志決定する必要がありますが、ワクチンは、新型コロナウイルス感染対策の切り札となります。

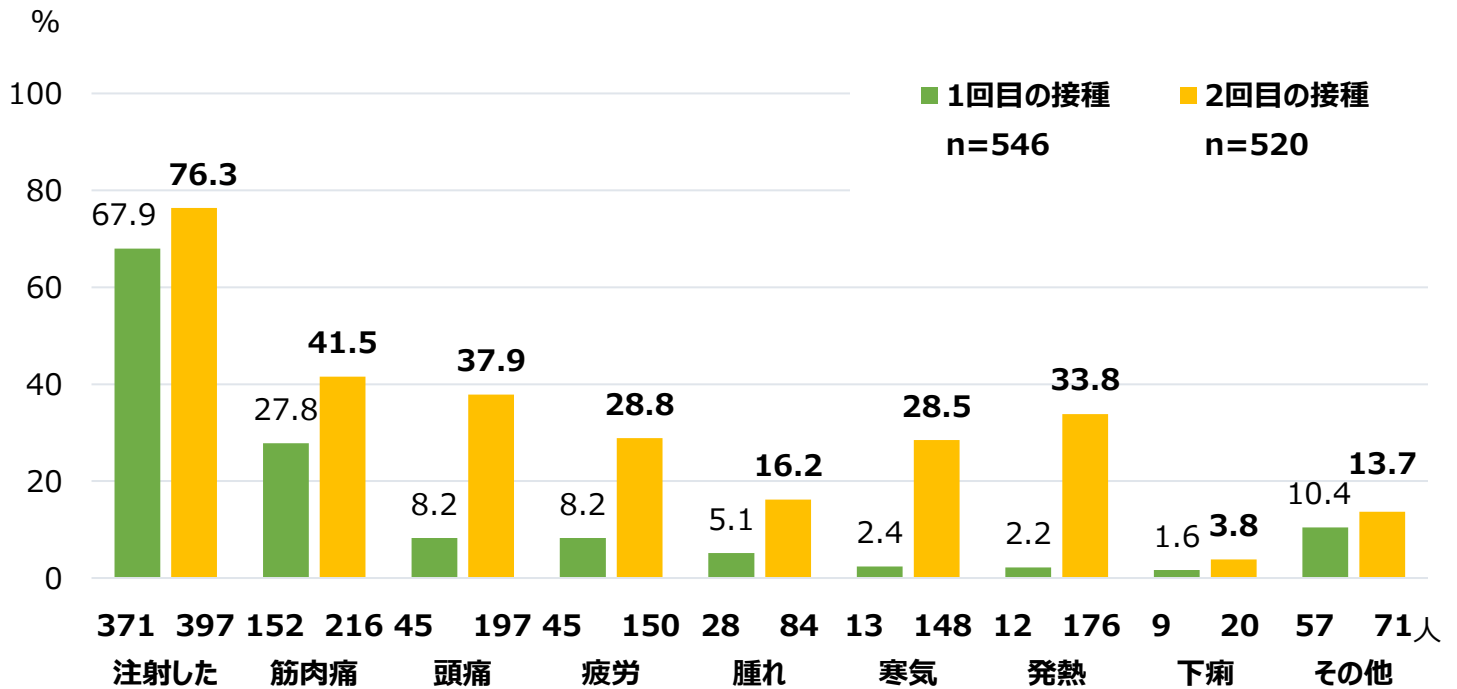
公立阿伎留医療センターでは、医療従事者の優先枠で3月15日～3月19日の期間と4月5日～4月9日の期間に新型コロナワクチンを2回にわたり接種した職員のうち、副反応のアンケート調査に協力が得られた1回目接種後546名、2回目接種後520名について、院内新型コロナウイルス対策本部でその調査結果の集計と評価を行いましたので公表します。

当院職員の新型コロナワクチン接種後の主な副反応をみますと、全体として1回目より2回目の方が多く認められました。性別でみると、注射部位の痛みでは顕著な差がみられませんでした。筋肉・関節痛や発熱で見ると、女性の方が多くみられました。また、年代別では、高齢層よりも若年層の方が多く認められました。なお、重症な副反応の事例はみられませんでした。

したがって、諸報告と同様に、新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応は、1回目よりも2回目後に、高齢者よりも若年者の方に、また男性よりも女性の方に出る頻度が高い傾向があります。高齢者に比較的少ないのは加齢に伴う免疫低下が背景にあると思われます。また、男性よりも女性に多いのは、エストロゲンやプロゲステロンなど女性ホルモンの働きにより、女性はもともと男性よりも免疫反応が強い傾向にあります。この傾向は、様々な感染症に対して強い抵抗力があるという利点をもたらす一方で、体内の免疫反応を利用して特定の病原体に免疫を付けるために接種するワクチンでは、過剰な免疫反応が発生して副反応が起きやすくなる一因ではないかと推測されます。

公立阿伎留医療センター職員

新型コロナワクチン接種後 症状別副反応調査結果（1回目・2回目）



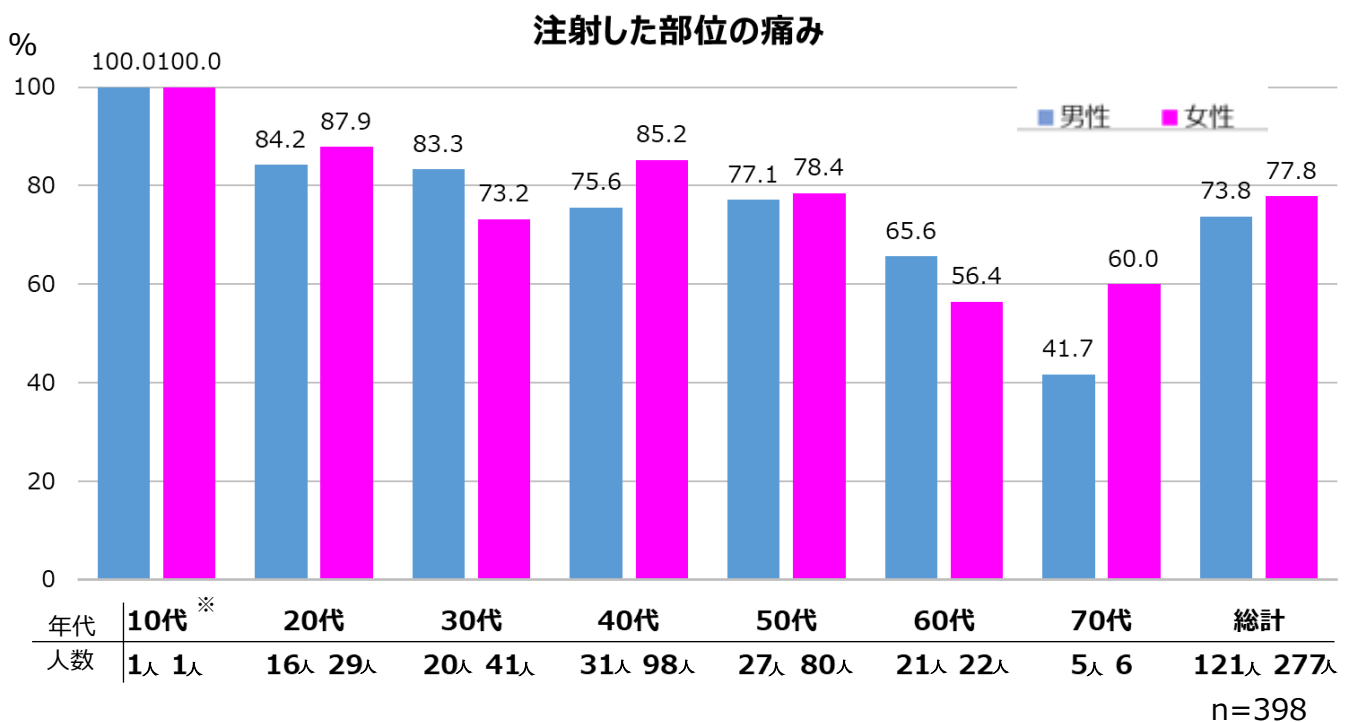
部位の痛み 関節痛

1回目：3月15日～3月19日

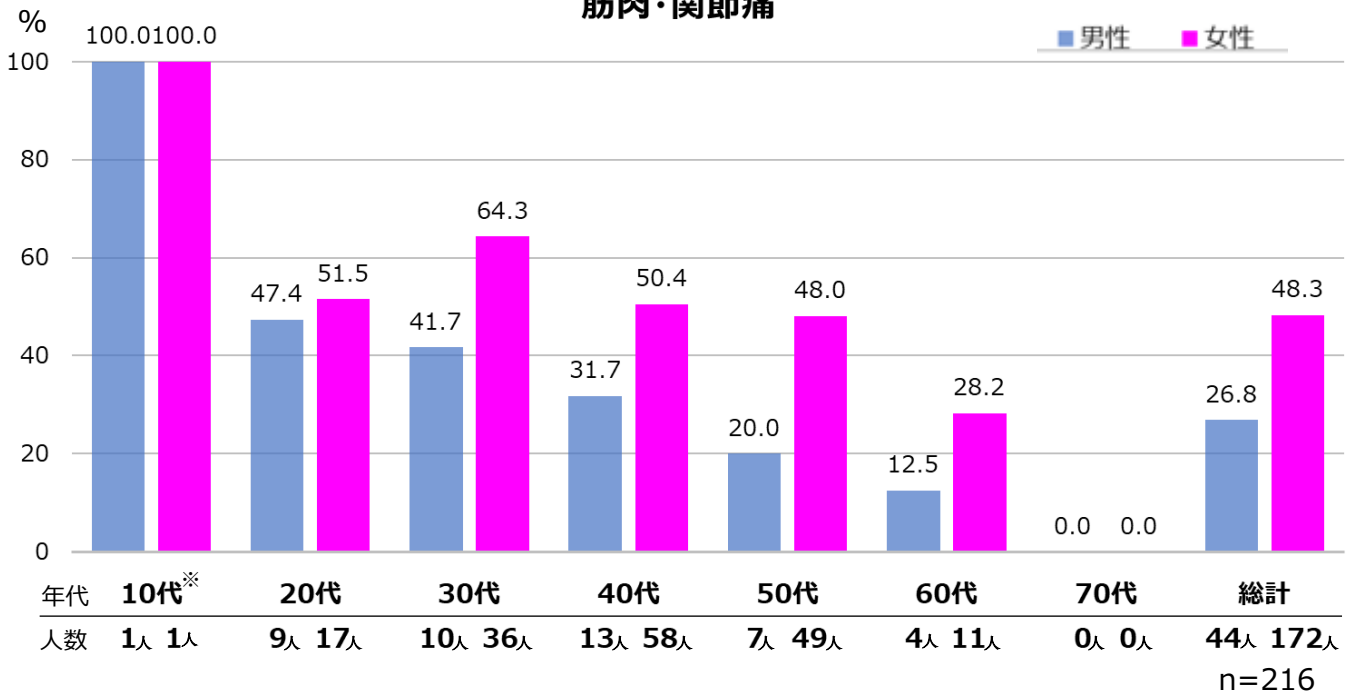
2回目：4月5日～4月9日

接種対象：当院職員（希望者）

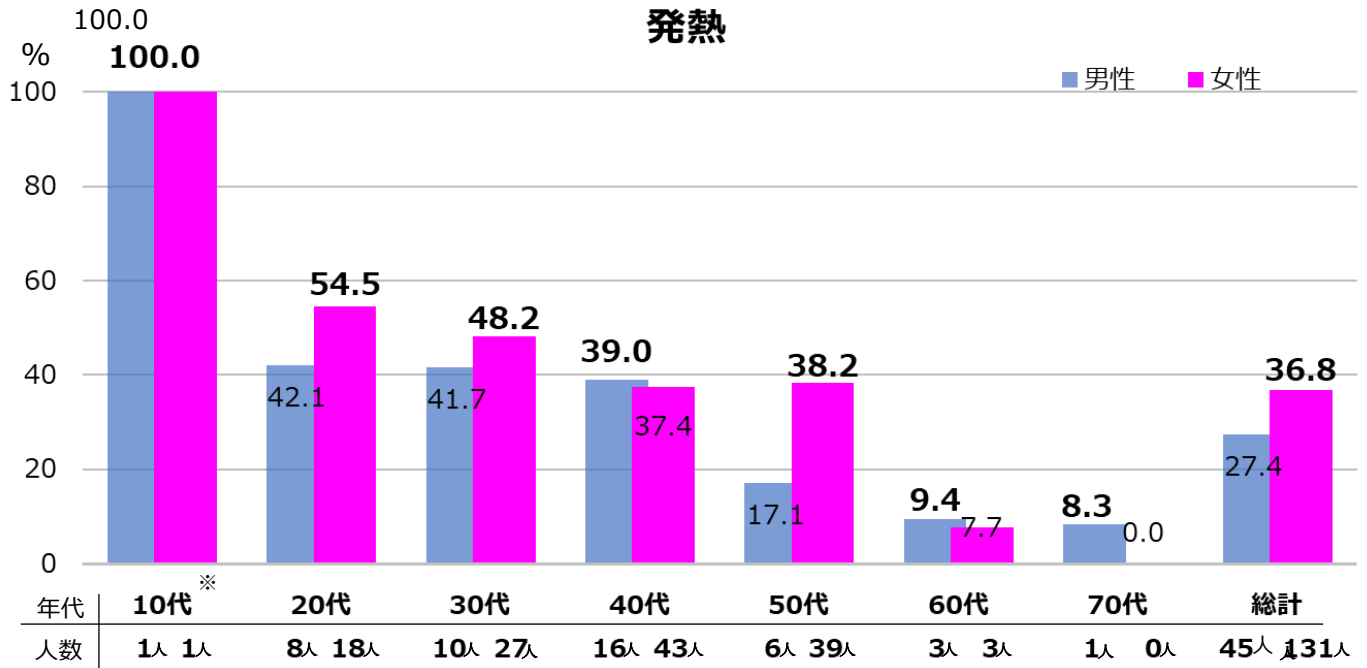
2回接種後の副反応（男女・年代別）



筋肉・関節痛



発熱



n=176

※10代の被接種者は男女各1名で各々に副反応がみられたため100%となっている。